

暴風台風への備え・対応

質問Ⅱ令和元年の教訓どのように生かすのか
答弁Ⅱ制度を最大限活用し支援する



浜田 孝男 議員

令和元年の台風15号の暴風による千葉県などの災害を教訓として、今後どのように生かして取り組むのか。

- ①長期の停電
- ②家屋の被害

池田町長

- ①長期の停電

防災上の拠点となる役場本庁舎などには72時間稼働が可能な自家発電装置を備えており、各避難所にはポータブル発電機を備蓄し、非常時の電源を確保できる対策を進めている。さらに、長期の停電に備

え、電力事業者や電気工務店と災害時の協力に関する協定を結び事業者の支援を活用することも想定している。

電柱や電線への被害は、電力事業者と協議を行い、断線につながるような支障木の撤去など平常時の維持管理の徹底を確認した。

また、被災後、道路が不通となった場合の通路の確保として相互協力の確認を事前に協議するなど協力体制を強化する。

- ②家屋の被害

被災を受けた家屋などの2次被害の軽減に活用するため、ブルーシートの備蓄

を進める。

また、一定以上の自然災害があった場合には「災害救助法」や「被災者生活再建支援制度」などがある。その他として、地方税などの減免や特例として一部損壊住宅の補助がある場合がある。被災時は、制度を最大限に活用し被災された方々の支援を行う。



台風による風倒木（勝賀瀬地区）

水田土木課長

砂防えん堤の点検は、管理者の県が平成25年から実施しており、結果、施設修繕の必要もなく全ての施設は大丈夫と聞いている。

砂防えん堤は、土砂が満杯になっても機能を維持する。また、満砂になれば川幅を広め、河川の勾配を緩くし、土石流や流水の力を弱め、両岸の崩壊を防止し、下流へ一気に土砂が流出しないようにして土砂災

害を防止する。



満砂の砂防えん堤（小野地区）

野良猫対策

質問Ⅱ町独自の対策を
答弁Ⅱ去勢・不妊手術の継続などを周知

浜田議員

野良猫のフンや尿で悩んでいる方が多くいる。行政が一步踏み込んだ事例もあるが、町独自の対策を検討しないか。

西村環境課長

県内では、負傷などにより、やむを得ず保護しなければならぬ猫以外は、引き取り・収容ができなく、直接猫を排除することは

きない。今後も、野良猫を増やさないように去勢・不妊手術の補助を継続し、県の補助金活用の周知を行う。また、野良猫だけでなく飼い猫を最後まで責任を持って飼うことや、室内飼いの推進などについても広報などで周知する。

地区などから要望があれば、環境課で啓発看板や回覧・配布用チラシも行っており活用してほしい。

土砂が満杯の砂防えん堤

質問Ⅱ点検結果は、機能しているか
答弁Ⅱ満砂でも機能は維持する

浜田議員

土砂が満杯の状態の砂防えん堤の点検結果は。

また、満砂でもえん堤は機能しているのか。全ての施設は大丈夫か。